

21世紀はポスト・ゲイ時代

21世紀は、もはやポスト・ゲイ時代といえるかもしれません。21世紀になってくると、映画のなかでも実社会でも、ゲイの存在が特別なものではなくなり、もうみんなが存在を認知している時代となったからです。『ゲイが認識された後の』時代という言い方ができます。

そして、映画のなかのゲイが大ブレイクしたのが、2005年だったのではないでしょう。この年、「ブロークバック・マウンテン」がアカデミー賞の監督賞などを受賞し、さらに「カポータイ」(ベネット・ミラー監督/05)でホモセクシャルであったことで知られる作家トルーマン・カポータイを演じたフィリップ・シーモア・ホフマンが主演男優賞を獲得しました。作品賞は「クラッシュ」がサプライズ受賞しましたが、「ブロークバック・マウンテン」が受賞することが予想されていたのです。またこの年は、「トランスアメリカ」(ダンカン・タッカー監督/05)でフェリシティー・ハフマンが主演女優賞にノミネートされていました。惜しくも受賞は逃しましたが、かなり有力視されていたのです。彼女は、何と性転換をしようとする男性の役を演じました。ゴールデングローブ賞のドラマ部門では主演女優賞を獲得しています。

さらに、この後08年には、有名なゲイの活動家ハーヴェイ・ミルクをシヨン・ペンが「ミルク」で演じて主演男優賞を獲得しました。ミルクの人生は、ドキュメンタリー「ハーヴェイ・ミルク」(ロバート・エプスタイン監督/84)にもなっていて、こちらもアカデミー賞長編ドキュメンタリー賞受賞の見ごたえある秀作です。ぜひご覧ください。

ここまでは男性のゲイの映画を中心に語ってきましたが、ゲイだけでなく、LGBTを描く映画は増えてきました。LGBT(エル・ジー・ビー・ティー)とは、女性同性愛者(レズビアン/Lesbian)、男性同性愛者(ゲイ/Gay)、両性愛者(バイセクシュアル/Bi-sexual)、そして性転換者・異性装同性愛者など(トランスジェンダー/Transgender)の頭字語を結びつけて作られた語です。最近では、クイア(異性愛を規範とする社会に反対するセクシャル・マイノリティ/Queer)を加えて、LGBTQともいわれるようになってきました。

アカデミー賞がらみの映画でいえば、シャーリーズ・セロンが実在のレズビアン死刑囚に扮して主演女優賞を獲得した「モンスター」(パティ・ジェンキンズ監督/03)があ

りましたし、アネット・ベニングとジュリアン・ムーアという二大女優がレズビアンのカップルを演じた「キッズ・オールライト」(リサ・チョロデンコ監督/10)も4部門でノミネートを受けました。

そして2014年も、「ダラス・バイヤーズクラブ」(ジャン・マルク・ヴァレ監督)で、性同一性障害のエイズ患者役でジャレッド・レトローが助演男優賞を受賞しています。この2年前には「人生はビッグナイズ」(マイク・ミルズ監督/10)で、クリストファー・プラマーが老年になってゲイであることをカムアウトするおじいさんの役で同賞を獲得しています。その他、脇役まで入れてしまえば、LGBT役は多すぎて書き切れないくらいです。最近では多くの人物が登場するアンサンブルものでは、必ずといっていいほどゲイが一人は出てきます。数々の賞に輝いた「リトル・ミス・サンシャイン」(ジョナサン・デートン&ヴァレリー・ファリス監督/06)では、ステイヴ・カレル扮するおじさんがゲイという設定でした。いまとなつては、ゲイは本当に身近な存在。ゲイパワーを否定することはできません。

一部の人たちの間では、ゲイに対する偏見はまだまだ続いていることは事実なのでしよう。とはいうものの、これだけゲイを扱う映画がアカデミー賞という華やかな舞台で榮譽に輝くというのは、ハリウッドの意識が徐々に変化していることを物語っています。「ブロードバック・マウンテン」が作品賞を逃した時にはゲイ差別だと騒がれましたが、近いうちに同性愛を正面から描いた映画が作品賞を獲得する日は来ると、私は予想しています。

ハリウッドはゲイの敵

先に述べた通り、ゲイが公然と映画で描かれるようになったのはヘイズ・コードの廃止以降ですが、もちろんゲイはそれ以前から存在していました。

「セルロイド・クローゼット」(ロバート・エプスタイン&ジェフリー・フリードマン監督/95)は、映画ファンには必見のドキュメンタリー映画ですが、この映画ではヘイズ・コード廃止以前の時代に、異性愛のオブラートにくるんでこっそりと同性愛が描かれていたことが暴露されています。『あ、そういうえば、あの映画はゲイだったんだ!』という驚きにあふれていて、古い映画に詳しい人ならワクワクする面白さでしょう。

「セルロイド・クローゼット」のなかで、次のようなボイス・オーバーが流れます。『映画の100年の歴史のなかで、同性愛が描かれた例はごく稀です。登場しても物笑いの種だ